

中学生模擬国連会議 in SEKI 報告書

2022/ 7/17

主催 関高等学校 関市観光協会

会場 せきてらす(地域交流施設)

関市平和通4丁目12番地6

参加 中学生27名 高校生10名

報告 後藤柚和 武内奥都那 嶋田知紗 都筑陽和 長尾葉月 古田真悠

(関高校1年)

《目次》企画実施の経緯	3
企画構成	3
会議経過	4
決議案	6
会議中の様子	7
感想	10

2022 中学生
模擬国連
会議 in 関



企画実施の経緯

関高校では、2019年度に、近隣の公立中学校に通う生徒を対象とした模擬国連を実施し、参加者から好評を得た。2021年度にコロナ禍による1年間のブランクを経て、2回目の中学生模擬国連を実施し、さらに2022年度に第3回企画を構想した。

企画の構成

模擬国連会議の構成は、会議経験のない参加者に配慮したものとした。

事前課題・資料の作成、概要説明から講評にいたる、企画・運営すべてを高校生が執り行った。

〔事前課題 資料の配布〕

〔模擬国連会議 参加の手引き〕

会議設定、会議内容など会議の概要を記した各国の大使役に配布する資料。事前課題の取り組み方、会議の具体的な流れの記載もされているためこの資料を活用し、会議全体を把握する。

〔PPP(position and policy paper)〕 (事前課題)

配布された資料とは別に自分達で調べた自国の情報と提案するドリンク・フードメニューの記入を行う。参加者たちが資料の作成をしやすいようにノルウェーの見本(PPP 見本)を添付した。

〔国別基本情報〕

国別の基礎データと上位輸出品目をまとめた資料。PPPを作成する際に活用する。また、この資料によって各国の上位輸出品目の把握をし、交渉の際に利用する。

〔概要説明〕

企画当日の冒頭において、全体の流れに関する説明が行われた。

- 模擬国連に関する説明
- 会議の内容
- 会議の流れ

〔会議当日〕

今回の会議は、通常模擬国連会議のプロシージャとは異なる「簡易プロシージャ」で行った。初心者である参加者でも会議の流れを理解し、議論をより深められるようにしたためである。

役職	担当者	業務内容
議長	関高生	○出席確認 ○議事進行を行う
副議長	関高生	○会議内容の説明

		○交渉における大使とのやり取り
書記	関高生	○パソコンでの議事録の作成 (大使の発言などを記録)

《会議設定》

「国際連合広報センター（UNIC）」では、国際連合本部（ニューヨーク）の施設内に「国連カフェ」の設立が提案された。第72期国連総会本会議において国連カフェのメニューをめぐる議論が交わされたが、結論には至らなかった。よって今回の会議においてメニュー（ドリンク9品・フード9品）の決定を行う。

種別	内容
議題	国連カフェのメニューの決定 コンセプト：「多文化」「リフレッシュ」
設定会議	第73回会期国際連合総会本会議
論点1	ドリンクメニューの決定 <ul style="list-style-type: none"> ● 9品まで 産地は4つまで可 ● 産地表示を義務づける
論点2	フードメニューの決定 <ul style="list-style-type: none"> ● 9品まで 産地はいくつあっても可 ● 産地表示を義務づけない
論点外	[日替わり制] [季節限定メニュー] [セットメニュー]

フードメニューは産地の数を限定するとメニューとして成立しえない可能性があるため、『産地表示を義務づけない』とした。また、メニューの増加を防ぐため上記3項目を論点外とした。

メニュー数に制限をかけたのは、単にメニュー案を出すだけでなく、メニュー数を減らしながらも自国の利益を守ろうとすることでより白熱した議論になると考えたためである。

会議経過

会議は、議長の開会宣言・出欠確認によって始められた。

● 全体交渉①

各国のメニュー案の共有・会議進行に関する議論を行った。

メニュー案の共有では、タブレットを用いて作成されたプレゼン資料、食品サンプル、自作のイラストなどが利用され、各国に自国の案を魅力的に見せる工夫が見られた。

会議進行に関する議論では、同じメニューの整理やコーヒーの飲み比べセットの提案、宗教に関わるアルコール問題についての議論がされた。（アルコール問題については運営側の審議により論点外とした。）

- 自由交渉①（45分）

全体交渉①での議論をもとに各国の交渉が行われた。2カ国、3カ国での少数国間の交渉が目立っていた。

「フードメニューの付け合わせの変更（例：カレー+ご飯orカレー+ナン）を可能にしたい」という意見が出たが主食が変わればメニューも変わるという運営側の意見により認められなかった。

《昼休憩》

- 全体交渉②

自由交渉①を経て決定した各国のメニュー案の共有を行った。同じメニューと似たメニューが整理されたがそれ以外のメニューの数は減らず、上限の9品を大幅に超えていた。

- 自由交渉②（45分）

全体交渉を踏まえ、自国の利益を守りつつメニュー案の数を減らせるよう、交渉が行われた。自由交渉①とは異なり、1カ国の大使を中心に多くの大使が集まり、会議が一体化していた。大使全員が積極的に動き、交渉を行うことでどの国にも利益があるようなメニュー案に調整されていた。

- 全体交渉③

自由交渉②により各国のドリンク・フードそれぞれのメニュー案が9個に整理され、一つの決議文書が提出された。

【議長裁量により、自由交渉③が追加された。】

- 自由交渉③（15分）

全体交渉③で提出された決議案が自国の利益につながるか、利益を得られない国が無いのか、再度確認された。

- 全体交渉④

自由交渉③によりメニューの名称変更、ドリンクメニューの産地表示国の追加が行われた。メニュー内容に変更はなかった。

- 投票行動

1つの決議文書が提出されたため「コンセンサス投票」に移行された。反対国がいなかったためこの決議案は、正式に決議された。

《会議終了》



General Assembly

Distr.: Limited
Original: Japanese

Seventy-third session

Agenda item: Deciding the menu of United Nations Café

Draft Resolution

The General Assembly (国際連合総会は) .

Recalling that United Nations Café would be built in the headquarter in the United Nations in New York in 73rd session,

第73会期において、ニューヨークの国際連合本部内に国連カフェの設置が決定されたことを想起し、

Recalling the concept of United Nations Café as “Multi-Culture and Refresh” 国連カフェのコンセプトを「多文化及びリフレッシュ」とすることを認識し、

1. *Decides* the drink menu of United Nations Café as the following; ドリンクメニューを以下の通り決定する。

	ドリンクメニュー	産地 (4つまで)
1	コーヒー	コロンビア・エチオピア・ベトナム・ブラジル
2	ミルクショコラ	コロンビア・アメリカ・フランス・イラン
3	カスタマイズアイスフルーツティー	メキシコ・イラン・ケニア・インド
4	シトラスムージー	エチオピア・イタリア・エジプト・ケニア
5	チマキ	メキシコ・インド・イタリア・中国
6	イチゴレモンソーダ	中国・日本・インド
7	フルーツワイン	フランス・インド・ブラジル・イラン
8	フルーツラッシー	トルコ・インド・中国
9	ルイボスティー	ブラジル・南アフリカ・エチオピア・エジプト

2. *Decides* the food menu of United Nations Café as the following. フードメニューを以下のとおり決定する。

	フードメニュー
1	バターチキンカレーリゾット
2	コロンビア風フォー
3	ミックスタコス
4	4種のミックスサンド
5	レモンクリームパスタ
6	アプリコットサムコーンクッキー
7	トマトホレシュ
8	イチゴと紅茶のムースケーキ
9	果物大福

会議の様子

地域交流施設・せきてらす 模擬国連会議会場



議長・副議長



書記



自作のイラスト (左)



タブレットを用いたプレゼン資料 (右)



会議進行に関する議論の様子



自由交渉①の様子



全体交渉②の様子



自由交渉②の様子



自由交渉③の様子



優秀大使賞 コロンビア大使



最優秀大使賞 フランス大使



感想

高校生大使： 関高校、加茂高校、武義高校

中学生の皆さんがとても積極的に話し合いに参加していて、素晴らしいなと感じました。普段はあまり触れる機会のない難しい内容ではあるものの、動じず自分からやる、そして何より、楽しんでやる、と言った中学生のとても素敵な姿に圧倒されました。

「ただ伝え合う」「意見をぶつけ合う」のではなく、相手の立場や他国との関係、宗教的理由などを考え交渉するといった多面的に意見を出している姿や相手にわかりやすく伝えるためにどうすれば良いか考える姿などが見られ、あまりの凄さに圧倒されました。

昨年に引き続き参加させていただきましたが、今回の模擬国連でも多種多様な意見が出て、一筋縄ではありませんでした。様々な考えに触れたことで、本当に国連に参加しているような感じがして、現在の世界の一端が見えたような気がします。実際に体験してみることで見えてくるものがあり、とても良い機会だなと感じました。自分としては、高校生になりコミュニケーションを取る事が少なくなっていた時にこのような行事に参加させていただくことに本当に感謝しています。コミュニケーションを取ることは自分の視野を広げるきっかけにもなりうるとても大事な事だと改めて強く感じることができました。

運営（1年）： 関高校

中学生の発言力にとっても驚きました。最初に行われた各国のプレゼンで時間内にイラストや動画なども使いながらプレゼンをする姿もそうですが、何よりその後の全体交流①での交流の積極性が凄かったです。18もある国のプレゼンを聞いた後に、それをもとにして自分たちがどういったことを話し合いたいのか、何を話し合った方がいいのか方針をたてて堂々と発言する姿にとっても驚きました。即興で、2カ国間で質疑応答をしあったり、アルコールに関するメニューの決め方についての議論が出た際には「昼と夜で提供する時間を決めたら良いのではないか」というような機転のきかせた新たな案を出すなど自発的な発言が多くあり、全員が納得のいく妥協点を探す姿はとても大きな力だなと感じました。

また、今回運営として参加する中で、個人的な面でも大きな実りがいくつもあったと思います。特に、臨機応変にその場で、自分たちで判断を下しながら会議を進めたり、分かりやすいよう工夫をしてパソコンに話し合いの記録を打ち込んだり、様々な立場から物事を考えるなど、普段の生活では経験する事のないような事ばかりで戸惑いや難しさを感じる事もありました。しかし、運営責任者の方々のサポートを受けながら、仲間と支え合い自ら限界を決めずに挑戦していく中で、次第に出来る事が増えていき、最終的に成功を収めることが出来ました。大きな達成感や満足感を感じ、次年度への自信にも繋がりました。

今回は昨年の会議に比べ規模が大きくなり、他校の生徒や中学生、地域の方々など、地域の結び付きが更に強くなりました。来年度は運営責任者の方々が卒業し、1年生のみで運営を担当します。このイベントを維持し、更に発展させていけるよう努めていきたいです。

運営責任者（3年）

沖館伽良： 関高校

今回の中学生模擬国連は、昨年の会議に比べ、会場が一体となってコンセンサスに向けた議論が繰り広げられました。全体の議論を中学生が先導する姿に驚くとともに、高校生と対等に議論を交わす彼らの能力に感服させられました。

午前の議論は、始めのメニュー共有を経て、2国間での交渉がメインとなりました。始めのメニュー共有では、数々の工夫を凝らしたスピーチが行われました。やはり今年の中学生も予想を上回ってきたなと感心しました。午後の議論では、全体・自由交渉の中で、決議文書作成に向けて一丸となって交渉を進める姿が多くありました。中でも、外交と内政、この2つの役割を分担した大使がいたことは、実際の国連を思わせるかのようでした。より会議全体を盛り上げるポイントとしては、地球規模の問題がある状況下で重宝される国際益だけ

ではなく、国益も重視してよい」と会議を見て感じました。

今後の活動は、「中学生の交渉力の向上」「地域の活性化」この2つをメインテーマとして、より多くの地域の方を巻き込んでいってほしいです。中学生模擬国連は、世界の複雑な問題にも合意を形成していく力を養うことができます。その後、議論の結果を地域に照らし合わせることで、地域を盛り上げることができます。ぜひ後輩の皆さんには頑張っていたきたいと思います。最後に、私たちの活動を支えてくださった方々に感謝申し上げます。

後藤雅尚： 関高校

私はこの中学生模擬国連に初回から大使としてまた運営として三回かかわってきました。その三回の中でも確実に中学生大使と高校生運営のレベルが上がっています。今回は最もレベルの高い会議になったのではないのでしょうか。初めから中学生が議論の舵を握り高校生をも圧倒する展開の中、高校生大使も高校生にしかできない会議のまとめ方を発揮して最後は共同作業でコンセンサス投票に持ち込むことができました。そんな日本でも数少ない中学生模擬国連を通じて私は様々なことを学びました。その一つが対話力です。初めて大使として参加した三年前には話すことが精一杯で自分が主張するものを理解していなかった自分が、運営を通して相手にとってより良い伝え方を意識したことで会議中での議論や会議進行をより質の高いものにすることができました。二つ目は臨機応変さです。特に今回の中学生模擬国連では中学生のレベルが高いこともありルールをもとにより独創的な案を出す事が多々ありました。そのなかで運営側として公平性、適応性を考えてその都度お互いの意見を出し合いながら議論をまとめていく事が出来ました。

いま世界は日に日に分極化し混沌としています。そんな時私たち中高生に必要な力はきっと模擬国連を通して得られる、互いの違いを見出し、理解する力ではないのでしょうか。違いを認め合う事が求められる社会において中高生のうちから相手との違いを感じることできっと相手を尊重される社会を作る事ができるのではないのでしょうか。私は高校生活の中での模擬国連は区切りを付けますが、これからも関高校独自の模擬国連を通して美濃地区の中高生に対して様々な力を養う機会を提供していってほしいと思います。

田中颯星： 加茂高校

昨年に引き続き参加させていただきました。今年は中学生・高校生ともに参加者が増え、高校生は新たに武義高校を加えた3校のメンバーでの運営となりました。高校生大使として参加した。昨年の模擬国連よりもさらにレベルアップし、充実した会議になったのではないかと思います。今回は序盤から中学生の勢いに高校生がのまれる展開となり、昨年より人数が増えたはずの高校生大使が終盤まで主導権を握らなかったことが印象的でした。特にフランス大使の自由交渉での動きには驚かされました。それくらい今回参加した中学生は力強く、昨年の経験者を中心に意見がまとまっていき、最終的に昨年は叶わなかった全会一致による採決を行うことができたことは大きな成果だと思います。

ご縁があって昨年の会議に急遽参加させていただき、今年も引き続き招待していただいたこと、本当にありがたく思います。招待していただかなければ「模擬国連」という催しがあること自体知ることではできなかったでしょう。2回の参加を通して、所属する学校も学年も違う生徒と一緒に活動することの楽しさに気付くことができました。本当にありがとうございました。そしてなにより、世界の協調と平和が脅かされつつある状況の中で、有効な手段を見出すことができず「無意味だ」との声もあがる国連(安保理事会と総会は別物かもしれないが)を題材とした催しを開催することは、とても有意義なことだと思います。これからもこの催しが中高生の手によって末永く続き、さらに発展していくことを期待しています。